

## バブルとアベノミクスを考える。

モータージャーナリスト、レーシングドライバー、そしてチューナーと多方面で活躍する太田哲也が、世の中に自らのオピニオンを直球で発信し世相を斬る「俺の話を聞け!」。第7回のテーマは、80~90年代のバブル景気と現在進行中のアベノミクスについて。バブルの波に乗って活躍した太田哲也が、当時のレース事情と現在のアベノミクスを語る。

TEXT●太田哲也(Tetsuya Ota)

PHOTO●ATO/小林邦寿(Kunihisa Kobayashi)

## 太田哲也の

# オレの話を聞け!

**Q** 「80年代バブルを通してアベノミクスを語る」がテーマです。高額商品が売れ、活気が戻りつつある現状を、80年代後半から90年初頭のバブル経済に似ていると見る向きがあります。そこでバブル期に仕事のみならず遊びでも存分に活躍した「バブル世代」に、アベノミクスがどのように映っているのか。とくにクルマやレースは景気に左右されやすいので、読者も興味があると思います。

**A** 80年代から90年代初頭にかけて確かにレース界は活況を呈していたね。今はコスト削減のためレースウィークの金土日だけに走る機会が限定されたりしているらしいけど、あの頃はトップカテゴリーに

参戦するドライバーには、走る機会がとつても多く与えられた。

オレ自身、トップフォーミュラはグラチャン(GC)とF3000、プロトタイプスポーツカーはCカー、ツーリングカーはグループA、それぞれのチームと契約し、年間二十数レースに出場し、レースウィーク以外にも毎週のようにタイヤメーカーや自動車メーカーの開発テスト走行があつて、しかも走行時間は4時間以上でくたくたになるまで、年間150日くらい走る機会が与えられた。だから誰でも速くなるよ。そういうシーズンも6~7年くらい経験した。

しかも大した戦績もないオレ程度のドライバーにそういうチャンスが与えられたという点がバブルならではのところだろうと思う。そもそもカート経験もなく、大学を卒業して最初は解体屋でサニー110を買ってきてレースを始めた。次にFJ1600という小さいフォーミュラカ



ーレースに出場して地方選手権のチャンピオンになったが、「プロを自指す」と親に告げたら、「何をバカなッ」と勘当されて家を出ることになった。金もない、後ろ盾もない、コネも経験もなかった。そんなドライバーが、レースを始めて数年でトップカテゴリーのシートに座っていたのだから、人と景気に恵まれたとしか言いようがないね。

**Q** 経験が浅いのにトップカテゴリー、そしてワークスに参入できた直接のきっかけは何だったのでしょうか?

**A** FJを2年やって、若手の登竜門F3にステップアップさせてもらったこと。その年のF3は、その後プロとして活躍する有力選手が目白押しだった。しかも

ちょっと自慢だが、当時のタイヤは

日社が圧倒的な強さで上位を占めていた。オレはY社でしかも新人なのにバイアスタイヤ組、つまりY社でも二重的存在。シーズン途中からの参戦で初めて乗る羽(ウイング)付きマシンに戸惑ったが、2戦目で予選2位、4レース目でポールポジション、決勝で2位になった。そうしたらトップフォーミュラのチームから「乗らないか?」と誘いをもらい、その年の最終戦でグラチャン・デビューとなった。翌年からはF3000も掛け持ちでフル出場させてもらえるようになった。

その翌年はマツダがCカーでワークス契約をしてくれた。推薦してくれた先輩ドライバーの従野さんが「これ太田のプロドライバーとしての

一生は大丈夫だ」と言われたときはうれしかったなあ……。プロとしての地位が確立したと思った。

**Q** 当時の収入はよかったですか?

**A** 金の話は言いにくいけど、まあF3ドライバーだとサラリイは貰えたとしても大したことはないね。けどトップカテゴリーの20人くらいに入れば急激によくなくなる。競争相手とあまり契約金の話はしなかったけど、F1ドライバーや星野選手クラスは別格として、オレらクラスでだいたい1チームからの年間契約金が2000万円、ファイトマネーが1戦あたり150万円、その辺りが相場ではなかったろうか。これに毎戦数十万から100万円単位の賞金の分配がつき、その他ヘルメットメーカーなどパーソナル契約金も入る。解体屋の10万のサニーでレースを始めたことを考えると、「おいおいどうしちやっただ」という夢の状況が続いた。

**Q** 相当派手な生活や遊びをしていたのでしょいうね?

**A** そう思うだろうけど、サーキットにいる時間が多くてあまり遊ぶ時間はなかったね。とくにバブル絶頂期の90、91年は、外国人ドライバーが大挙して参戦し、その多くはその後F1にステップアップした実力者ばかりで競争が激化していた。オフの日は朝からジム、午後はプール、と結構まじめにやっていたよ。

まあ、でも先輩ドライバーからは、プロとしては走りだけでなく自分のイメージ作りが大切で「口レックスくらいはしとけよ」と。ゴルフ会員権とかマンションとか、アルマーニの服とか……。「食事はケチるなよ」なんて言われ、よく高級な店に食事





当時は戦力でもあったダンロップタイヤでグラチャンに参戦し、予選2位につけた太田哲也選手(写真中央)。右隣りは松本恵二選手で、左はエマヌエル・ピロ選手。さらにその左にはバブル期のレーシングシーンを象徴するレイトハウスから出走していた関谷正徳選手の写真も。



当時のバブル景気を象徴する出来事のひとつに、銀座松屋デパートによるレースのスポンサーでも挙げられる(写真上)。また、ル・マンに参戦していたマツダワークスチームは、歴史あるお城を丸々借りきて定宿にしていた(写真右)。今ではとても考えられない状況だ。



先日行われたバガーニ・ジャパンの活動開始と、バガーニ・ウアイラのお披露目を兼ねた発表会場を訪れた太田哲也氏。1億5000万円とも言われるウアイラが、正規ディーラーを設立した上で販売される……バブル期に高級車が飛ぶように売れたことを思い起こさせる出来事だ。

みと、360km超のオバケマシンをドライブできた。ドライバーとしてその経験は、何物にも替え難い。もしこれが自分の金でやったとしたら何十億もかかったろう。そして口座に億を超える数字を見たとき、責任の重大さを強く意識した。プロとは何か？ そんな意識が強まったと思う。

バブルって虚構で、買った大金も若気の至りでほとんどなくなってしまうけど、ゲームでいうところのボーナスステージみたいなものかもしれないね。

それに、バブル崩壊やリーマンショックがあっても、日本のGDPは中国に抜かれたとはいえず世界3位だし、大学生の就職が大変だというけど職種や企業を選ばなければ何らかはあるし、エンゲル係数も終戦直後は70%近くだったらしいが最近はずっと20%台、オレらが学生の頃よりも食費は安いし生活レベルも高い。クルマ業界に関しては、数年前にエコカー旋風が吹き荒れ、オートサロンでさえエコカーとミニバンばかりで、この先「クルマ」はどうなるのかと嘆いたけど、今年はハチロク効果もあり盛り上がりだした。

経済は浮き沈みをしながらも、国民生活やクルマ愛好家を取り巻く環境は、カタチは変えつつも少しずつ豊かになっているんじゃないかなと考えている。

するとアベノミクスについては？

円安のおかげで日系自動車メーカーは好調だけど、輸入原価高騰のせいでその下請けを含めて多くの中小企業に恩恵はない。株価高騰も海外投資家が行う投機目的のヘッジファンドによる影響が少なくない。日本株に対する外国人投資家シェアは60%にもなる。アベノミクス戦略の柱・三本の矢もそれ自体に矛盾を感じる。しかしそれもわかつた上で、たとえアベノミクスがブチバブルだとしても、崩壊後に最悪の結果になることもないのではないかと。オレは基本的にベシミストだが、それでも財政破綻や戦争でもない限り、元に戻るだけだろう、と考えている。

だったら前を見ようよ。恩恵を受けている層はまだ一部だろうけど、数年前のエコカーだけが全盛だった時代は、買う資金力がある人でもなんとなく高級車を買う気がしなかったのではないかと。日本中に買い控えが蔓延しデフレ・スバイラルに陥っていた。あのときにフェラーリを買って乗り回したら、一般的には時代の空気が読めない人と思われたらう。でも今は堂々と買える時期がやってきた！ 日本人には1400兆円もの個人資産があるという。それをうまく利用すれば経済は回る。高額商品を買って税金をたくさん払うことは社会貢献だ。金を使うことが美德という空気が始まった。そんな点ではバブルの始まりと似ている。

この2013年も、ラフェラーリ、マクラーレンP1、ボルシエ918スパイダーなどのスーパースポーツが発売され、実際にデリバリーも開始する。また、1億5000万円のバガーニ・ウアイラも国内正規販売代理店が発足した。資金力のある工

ンスージャストの琴線を刺激するモデルが続々と上陸している。きっとゲンロクの読者は資金力がある人が多いだろうから、是非この機会で購入を検討されたい。

オレがバブル期に学んだことは、金を広く使うことは、結局は自分の投資だ。無駄遣いはよくないけど、資金力がある人はほとんど使おう。墓場に持っていくわけでもなく、子孫に残そうとしても今後相続税はますます上がる。佐藤琢磨のお父さんの和利さんは人権派の弁護士で「全を残しても子の幸福につながる。生きてきた証は子に『夢』という形で託せ」と言った。

富裕層の皆さんには、資産価値がどうのとか考えずにウアイラとかりシャル・ミルとか作り手の想いがぎっちり詰まったプロダクトをすすめてほしい。そしてそれをみんなに見せびらかして、日本に夢を広げて欲しい。

### 近況報告

来たる9/8(日)に「Tetsuya OTA出光ENJOY & SAFETY DRIVING LESSON with SUBARU」を袖ヶ浦フォレストレースウェイにて開催！ 教習車にBRZ tsも登場！ 初心者から経験者まで3クラスあり。講師は太田校長と砂子塾長が務めます。詳細はweb (<http://www.sportsdriving.jp>)、もしくは☎045-948-5540まで。また、太田氏への質問も募集。GENROO編集部「オレの話を開け！」係までおハガキにてご投稿下さい。

